

令和5年盆施餓鬼会のご案内

合掌 昨年からお盆は例年同様に戻しております。

今年はさらに一步踏み込みまして、元々私がやりたかったお盆の日程前倒しもさせて頂いてあります。下記にも書いてありますが、今年のお盆は8月の**第一日曜日**に行いますのでよろしくお願い致します。今までは第三日曜日にやっていたのですが、これですとお盆（8月13～16日）を過ぎてしまうことが多々ありました。勿論過ぎてから祈っても、我々の想いは故人らに届くと思っております。しかし、やはり皆様方が精霊棚を作ったり、お墓を綺麗にしたり、というのは「故人達が帰ってくる準備」という側面を持つことも事実です。

その為、今までこの案内の裏面には「盆」と「施餓鬼」の由来を書いてきましたが、若干分かりづらいその文面は廃止し、通常皆様にお伝えしている**お盆の心構えを新しく**書いています。ぜひお読み下さればと思います。

また、**新盆の方**に関しては同封した資料にもあるように**ご自宅に伺う棚経**と下記のお盆の**法要**への参加を電話にてご案内します。連絡来ない場合はお寺の方までお問合せ下さい。今月下旬から**順次新盆に該当する方には連絡を**いれて棚経参りの日程を調整していきます。その際、**土日に入れることが多い為、もし7月、8月に回忌法要などをお考えの方はお早めにご連絡ください。**

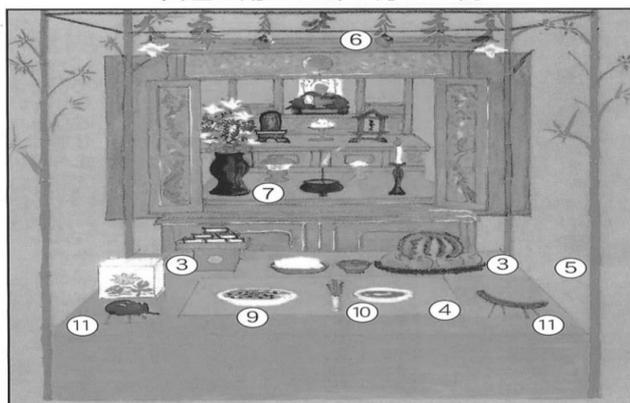
なお、お塔婆書きでございますが書き上げるまでに相応の時間がかかります。その為、申込み期限は例年同様、法要**一週間前の7月30日（日）**とさせていただきます。できるだけ早めのお申し込みを頂ければ幸いです。

また、例年の護寺会費報告の他に昨年もお呼びした「**日蓮宗布教師研修生**」の法話をして**頂く**予定です。日蓮宗でも各種修行機関が再開されましたが、まだなかなか外部で話す実践の機会がないそうです。今年も未来の「布教師」たちに少しでも協力しようとお盆法要で話す機会を設けさせて頂きました。ぜひ聞いてみて下さい。

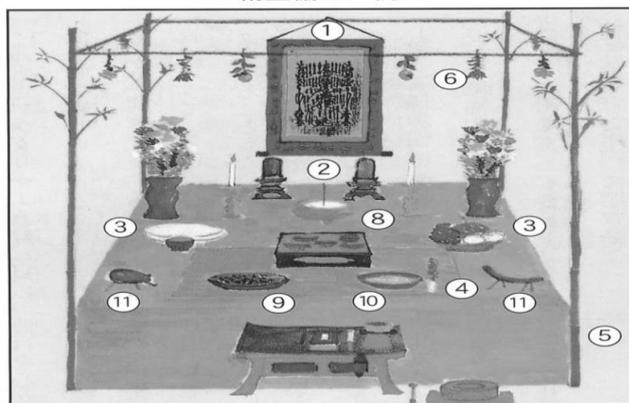
記

盆施餓鬼供養説明

仏壇を用いた飾り方の一例



精霊棚の一例



精霊棚を飾りましょう

精霊棚は、お盆の間御先祖様がお泊りになる所です。感謝の心をこめて飾りましょう。

- ① お曼荼羅
- ② お位牌
- ③ お供物―麺類、水菓子、果物など
- ④ マコモのゴザ
- ⑤ 青竹
- ⑥ ほうずきの他、季節の花を吊るす。
- ⑦ 三具足―左から華・香炉(中心)・灯明の順
- ⑧ 五具足―外側に華、その内側に灯明、中心には香炉の順

⑨ 水の子―茄子、キュウリを細かくきざみ、洗米を混ぜて鉢に入れます。

⑩ 水器(灑水盤)―器に蓮の葉を敷いて、水を入れ、みそはぎの葉を束ねて置きます。

⑪ キュウリの馬と茄子の牛―御先祖様の乗り物。迎えは早く、帰りはお土産を持ってゆつくりと。

事情によって精霊棚を飾れない場合でも、仏壇をきれいに清めて水の子と水器、乗り物の馬と牛を飾ってお盆を迎えましょう。

※飾り方は地域によって変わる事があります。

※あくまで日蓮宗の一例です。個人的には下記の由来に基づき、水の供養とお経を上げれば良いと思っています。全てやらなくても一部だけでも十分です。

故人達が8月13~16日(地域によって伝えられている時期はズレます)の間は我々の元に帰ってきて一緒に過ごす、というのがお盆の意味合いです。その際にお寺としては故人達だけでなく、広く供養しましょうということを伝えています。何故でしょうか。様々な理由はあるのですが、皆様に一番身近な理由は故人達が帰ってきた際に過ごしやすい為だと伝えています。

故人らが普段いる仏の世界というのは落ち着いた世界であり、皆が支えあって我々のことを見守っている世界だと言われています。(仏教に曰く：穏やかで静かな林の中)

では我々の世界はどうでしょう。悩み苦しみが溢れ、それらは尽きることなく、新たな火種としてますます燃え盛っていく世界です。(仏教に曰く：燃え盛る炎に包まれた建物の中)

こちらに故人らが帰ってくるのなら、なるべくその炎(煩惱や欲望、悩み苦しみを)消して、居心地良くしておこうというのが理由の一つです。炎は一部だけ消しても意味がありません。自分や家族だけでなく、なるべく周囲まで含めて炎を消すため、縁のある方や飢えている方にも広く供養しましょうと伝えて